

(2)その他、特筆すべき教育・研究・診療・社会貢献活動等への取組と成果、世界的位置付け(ISI citation など)など。* ISI データのない場合は、可能であればいろいろな指標を使って国内的位置づけを示す。

分野	取組と成果、世界的位置づけ	18年度の状況
<p>特筆すべき教育活動</p>	<p>【学部教育】</p> <p>1. 全国共通コアカリキュラム導入に合わせた学部カリキュラム再編を期に、学部学生の大学院への進学を促進することを目的とした本学部独自のアドバンス科目の充実を図った。すなわち、4年次後半から5年次にかけて再生・創建医歯学、生体材料学などの先端歯学に関する基礎知識を身に付けるアドバンス科目を新設するとともに、5年次には研究実習を行う既存の基礎研究実習に接続し、歯学研究の基礎を身近に体験する歯学基礎演習を新設することでプレ大学院教育の充実を図った。これらは大学院重点化された歯学研究科・歯学部としての先駆的な取り組みである。</p> <p>2. 臨床実習、臨床研修への円滑な導入を容易にするため、学部5年次に臨床課題の解決能力を涵養するPBL方式の歯学臨床ゼミを新設、また臨床手技の得得を考慮した臨床シミュレーション実習を新設した。同様に、隣接医学教育を臨床実習直前の5年次に移動した。これらは時代に対応した臨床技能の保証や効率的・効果的な臨床実習の実施を助成した実効的カリキュラムである。</p> <p>【大学院教育】</p> <p>1. 大学院重点化がなされた独立歯学研究科(全国4大学のみ)として、かつ全国唯一の歯学に特化した修士課程を有する研究科として、高い入学定員充足率、学位授与率を誇る。</p> <p>2. 修士課程・博士課程とともに、入学から学位取得に至る学習過程を段階的に構成している。すなわち1年次にテーマ選定会議を設け、研究立案能力、プレゼンテーション能力の涵養を図るとともに、複数の指導教員による研究指導体制を構築する。授業科目は年次進行的に専門知識ならびに研究能力の向上が図られるよう設定されている。さらに最終学年では、予備審査から始まる段階的な学位論文作製指導を行っている。これら指導体制は他大学には見られない特徴である。</p> <p>3. 全国トップレベルの総合大学に在る歯学研究科として、他部局との連携による大学院教育体制を有する。具体的には、協力講座として加齢医学研究所、金属材料研究所の参画、国際高等教育研究院、分子イメージング連携大学院への参加、他部局との単位互換があげられる。</p> <p>4. さらに学外研究機関との連携講座(国立長寿医療研究所、国立国際医療研究所)、海外学術提携校との連携、インターフェイス口腔健康科学国際シンポジウムの定期開催などを利用した異分野融合型教育を実践している。3,4の取り組みによって専門領域に加え周辺領域をも包含した「総合的知」を獲得することを特徴とする。</p>	<p>年次進行の学部カリキュラム再編は18年度に完成した。今後、その評価とそれに基づく改善を継続する。</p> <p>19年度、教授会のもとに歯学部教育懇談会を設置し、臨床実習の在り方をはじめとした学部教育の継続的改善についての検討を開始した。</p> <p>魅力ある大学院教育GPへ応募した「インターシステム歯学研究者養成コンソーシアム」構想に基づき、段階的教育プログラムのさらなる改善を行った。</p> <p>大学院教務委員会にてポートフォリオ形式での評価・学習進行状況の教員間共有について検討を開始した。</p> <p>18年度、長寿研、国際医療研との連携講座を設置。</p> <p>大学院生への研究費支援制度の策定ならびに実施(19年度)。</p>

<p>特筆すべき研究活動</p>	<p>1. 平成19年度概算要求研究推進「大学間連携事業：生体 - バイオマテリアル高機能インタ - フェイス科学推進事業（東北大学歯学研究科・金属材料研究所，九州大学応用力学研究所）」の採択．</p> <p>歯学の特質であるバイオマテリアルを用いた形態・機能の再建・創建に関し、バイオマテリアルと生体との界面の制御からアプローチする研究事業であり、歯学としての独自性とともに普遍的な意義を持つ。歯学領域としては全国初の研究推進事業である。</p> <p>2. インターフェイス口腔健康科学事業の推進。</p> <p>インターフェイス口腔健康科学国際シンポジウムとインターフェイス口腔健康科学フォーラムの定期開催を行っている。本事業の一つの成果として上記概算要求事業が採択された。また国際シンポジウムの成果は、Monograph シリーズ[Interface Oral Health Science]として上梓．世界へ発信している．</p> <p>3. NEDO 国際共同研究助成事業：国際標準創成分野に「歯科用磁性アタッチメントの最適化と国際標準の創成」(平成17年度から3年間)採択．</p> <p>4. 経済産業省地域新生コンソーシアム研究開発事業:「患者参加型歯科医療を実現する噛み合わせの立体可視化装置の開発」(18年度から2年間)採択．</p> <p>5. 厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業):「低侵襲かつ簡便な摂食・嚥下機能評価システムの構築に関する研究」(平成18年～20年)採択．</p> <p>厚生労働科学研究費補助金(長寿科学総合研究事業):「小規模な高齢者介護施設等における感染管理に関する研究」(平成18年～21年)採択．</p>	<p>18年度申請。19年3月、運営委員会開催。</p> <p>19年度、研究課題の公募と助教の採用を行った。</p> <p>19年2月18/19日、第2回国際シンポジウム開催。今年中にMonograph 第2号発刊予定。</p>
<p>特筆すべき社会貢献活動</p>	<p>1. 社会貢献委員会のもとに、地域歯科保健推進室を設置，宮城県，仙台市ならびに地域歯科医師会と口腔保健推進にかかる連携を推進</p> <p>2. 東北大学歯学会50回記念大会など地域歯科医師会との共催講演会，研究科主催のフォーラム開催などの学術連携を推進．</p>	<p>18年度地域歯科保健推進室設置準備委員会にて協議。地域歯科保健推進室を設立。登米市、美里町との共同事業を実施。</p>